

中二国語科通信

第2号
令和3年1月19日担当
国語科3年
狭間・奥池



お年玉をもらう時だけ「ございます」をつけてお礼を言いに二歳児

自己探究ノート 「私と〇〇」

紹介するのは、「上手」なものだけではありません。ある意味「問題作」も含まれているかも……？？？

「私とカギ」

柴田憲斗

人の心にはカギがかかっている。人によって心のカギ穴やカギの形が異なっている。私はそれこそが相性なのだと考えている。カギとカギ穴の形が一致した時にのみ、心を開いて楽しい時間を共有できる。相手に意見を合わせる必要は全くなく、本心で話せる人を見つけることが大切だ。そんな人に出会えたら楽しい人生になるだろう。

▼同じようなことを、『徒然草』の作者誰かわかるよね？が書いていました。何百年経つても考えることは似ていますね。

「私と自転車」

瀧口瑠莉

私は毎日自転車で学校に登校している。バス通の人はよく「自転車で登校するの楽しそう」と言う。そんな事を言うなら自転車で来いと私は思う。なぜなら、夏は汗が止まらない程暑いからだ。やつのことで学校に着くと、バス通生がサラサラの髪をゆらしてしゃべっている。それに比べて汗だくの私。いつかこんな差がなくなつてほしい。

▼バス通生に対する怒りがひしひしと伝わってきます。さらに、対比などの表現の工夫がその切れ味を増していますね。

「私とお風呂」

恵利葉月

私はとても長風呂だ。三十分で上げればまだ短い方だ。なぜ、そんなに長いのかというと、ぼーっとしているからだ。トイレや、お風呂のように、閉鎖的な空間に一人っていると、落ち着くのだ。

お風呂が長くなるのはそういう理由なので、人がたくさんいる温泉は好きではない。お風呂が好きなのは、落ち着く空間が好きなのだ。

▼自分はどういった場所が好きなのかを具体的に分析し、その共通点を見出しました。自分を冷静に探究することができていますね。

「私と妬み」

中島清住

私は今までに何度も人を妬んだことがある。例えば自分にはできないことだ。その度に私は他人が当たり前でできることができない自分に不安を感じていた。しかし今は違う。学校などでさまざまな人と出会って不安を感じる必要はないと思った。みんなできることが違うだけだ。だからこれからは自分自信を持って生きていきたい。

▼「みんなできることが違うだけだ」というフレーズが最高！だからこそ世の中が成り立っているんですね。

「私とクリスマス」

面高颯良

私はサンタを信じている。母は「サンタなんていない。」と言っているが、私はいると信じている。しかし、中学生になってから一度ももらっていない。毎日勉強し、手伝いもして、良い行いをしているが、ゲームの時間はほんの少し長いと思う。

今年こそはもらえるように、良い子になります。

▼最後、いきなりの敬体は本来なら×なのですが、ここでは逆に効果を発揮していますね。まずはゲームをやめれば良いと思うのですが……。

「私と目覚まし時計」

二宮拓己

私は毎朝、スマホの目覚まし機能で起きている。だがその目覚ましのアラームさえも夢の中の音だと勘違いして気付かない事がある。なぜ毎朝、同じ音色なのに無意識に勘違いしてしまうのだろうか。私は、寝る時間が遅いせいなのか眠りについた瞬間から朝の起きる寸前までずっと深く眠っている気がする。寝る時間を早めた方がいいかもしれない。

▼夢うつつのままアラームを聞き続ける……。昔を思い出して共感してしまいました。着眼点が面白い。

「墮落した私」

狭間千穂

生徒の皆さんが休校の間、多忙を極める日頃とは違う、割とゆったりとした気持ちで仕事ができている。でもその一方で、なぜか仕事がかどらない。「今日やらなくても、明日もあるし」という思いは、人を墮落させる。

「明日」は確かに、来る。よっぽどのがない限り、来る。でも、普段なら「今日」終わらせられることを「今日」しなかった私は、きつと「明日」も終わらせられないだろう。

ある程度の緊張感や焦りは大事だなあ……と、つくづく思い知らされた数日間でした。

早く日常が戻ってほしいです。

百人一首大会

冬補習最終日に実施した大会の様子をほんの少しご紹介いたします。

(マスク 換気の上、実施しています)

